福井の文化をきり拓く　Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか～と
2010.9
Vol.33

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

PICK UP　注目の公演情報

ともしびと歌おう　青春の大うたごえ喫茶 Vol.4

東京新宿「ともしび」の行貝（なめがい）ひろみ INTERVIEW

今、再び、うたごえ喫茶が、熱い!!

「うたごえ喫茶」をご存知ですか？

昭和30年頃、東京で発祥し流行した喫茶店の形態の一つで、歌集に収められた歌の中からお客様のリクエストによって選ばれた歌を、歌唱リーダーと呼ばれる人がメインになって、みんなで歌う。ライブハウスとも、一人で歌うカラオケとも違う…。百聞は一見にしかず、実際の歌声喫茶を体験しに、いざ、東京新宿のうたごえ喫茶「ともしび」へ。そこは、ゆったりとした時間の流れる、温かな場所でした。「ロシア民謡」「童謡」「フォークソング」など、皆さん懐かしそうに、声高らかに歌いあげ、その場にいる全ての方が幼なじみのような雰囲気になっていました。歌を、時間を共有する、ただそれだけで、人々はつながることができるのかもしれません。そんなつながりを今、また人々は求めているのではないでしょうか。
今年も、福井市文化会館では、東京新宿「ともしび」を迎えて会館をその日限りのうたごえ喫茶にする「大うたごえ喫茶」を開催します。そこで、これまでの「大うたごえ喫茶」に来ていただいている“ナメちゃん”こと行貝さんにうたごえ喫茶について色々とお話を伺いました。今年の「大うたごえ喫茶」にも出演の“ナメちゃん”。当日は是非福井市文化会館でともに歌いましょう。

（聞き手：事務局　杉町）

――先ずは、行貝さんと『うたごえ喫茶』の出会いを教えていただけますか？

私がうたごえ喫茶に初めて行ったのは20才の時、職場の先輩に連れていってもらいました。西武新宿前にあった大きな店でうねるような歌声にカルチャーショックを受けました。その時の感触が忘れられずにいたところ、通勤電車の車窓から「うたごえ喫茶」の看板が見え、思わず降りて店を探しました。土曜の夕方、はじめはまだお客がいなくて私一人でしたが時間がたち気づいた時には満席に、知らない同志があちこちのテーブルで会話しながら歌を歌っていました。歌集の中の知っている曲はほんの数曲でしたが歌いあうことの楽しさと温かい雰囲気にすっかりはまってしまい、その日のうちに合唱団研究生に入ってしまいました。店中が合唱になったり司会者の楽しいおしゃべりに一緒に笑い、まるで昔からの知り合いのような親近感で過ごせたことが地方から上京した私には大切な空間となったのだと思います。

ある日の「ともしび」

――「知らない人同志が、お店に入った瞬間昔からの知り合いのように親近感を持てる。」私も伺った時に感じたのですが、お客さまが皆さんまるで幼なじみのようでした。
『うたごえ喫茶』は昭和30年ごろ全盛期だったと言われていますが、今、また再び人気が上昇しているようですね。各地で1000人を超えるうたごえ喫茶が開催されたり、うたごえ喫茶バスツアーなどの記事も目にしたことがあります。この様な状況をどのように感じられますか？
時代が求めているように思います。「みんなが主人公」という思いでお客様のリクエストに込められた思い、人と人がふれあいながら歌いあうことの高揚感。一期一会の中にたくさんのドラマがあるように、各地のうたごえ、毎日のお店にもドラマがあります。歌い終えた時の達成感に、どなたも明日への活力を見いだすのでしょう。お話をしますと驚くほどの経験や環境で過ごされている方が自然体で本当に歌を楽しんでおられます。みなさん「歌ってとっても元気になりました」「この歌覚えたいです」「この歌聞きたい」など、泉のように歌力が沸いてくるようです。

――時代が求める『うたごえ喫茶』。なんとなくわかる気がします。歌からパワーをもらっているのですね。そのニーズにこたえるように、『ともしび』では出前歌声などを行ってらっしゃいますが、各地での特色や、エピソードなどございましたら教えてください。
たくさんありますよ～。
バスツアーでは、渋滞になると拍手が起こるんです。「やった、これでもっと歌えるぞ」って。すでに1日で70曲は歌っているのに。丸いテーブルがたくさん並んでいる場所で歌った最後、会場内に二重三重の大きな輪ができて♪若者たち、♪ふるさとを歌っていたら、あちこちで涙ぐむ人がいました。
他には、飲食持ち込み自由、始まる前からお酒あり重箱あり、まるで村のお花見のような中、うたごえが始まりました。リクエストを受け取りに客席内を回ると「これ食べて。まあ飲みなよ」と司会の私たちにもお酒やおつまみが届く届く。そうか、一緒に楽しもうと、もちろん遠慮なく頂きました。

――それぞれの場所で、それぞれの楽しみ。渋滞で拍手が起こる風景を思い描くとなんだかほほえましくなります。皆さんの“歌いたい”という熱い思いが伝わりますね。
さて、それでは10月に福井市文化会館で行う『大うたごえ喫茶』のお話をしたいと思います。『大うたごえ喫茶』でも、お店と同じように、お客様からリクエストを受け付けますが、その時、思い出の歌にまつわるエピソードなども書いていただいています。行貝さんにとっての“思い出の歌”はありますか？

「忘れな草をあなたに」。
実は一人でお店を訪ねた時は大失恋の時だったのです。何も知らない司会者に呼び出されてこの曲を歌ったら、涙が出てきてしまいました。

――ほろ苦い青春の1ページですね。いい思い出ばかりではないかもしれないけど、聴いたり口ずさむことによって甦る記憶もありますね。
色々なことを教えていただきましたが、行貝さんにとって一言でいうと「うたごえ喫茶」とはどのようなものですか？
小さい時から飽きっぽかった私の人生でようやく出会えた生き甲斐、天職でしょうか。決まったものでないライブ感が大好きです。

――それでは最後に、福井の皆さまにメッセージをお願いします。
福井には第1回から参加させていただいています。毎回、歌への思いが深くなってきているように感じています。人と人がつながりあう空間を皆さんと一緒に楽しく大切に歌いあいたいと思います。

――ありがとうございました。
10月に福井でお会いできることを楽しみにしています♪

インタビューは

行貝ひろみさんにご協力いただきました

行貝ひろみ（ナメちゃん）PROFILE

千葉県館山市出身
館山高校卒業後上京、うたごえ喫茶ともしび亀戸店に出入りするようになり、1976年音楽文化集団ともしびに入団。1983年プロの音楽家をめざし、ともしびに入社。入社と同時に、「青柳常夫ふれあいコンサート」のアシスタントとして活躍。その後、全国の子ども劇場・おやこ劇場を中心に、「うたのおもちゃ箱コンサート」「空飛ぶうたの海賊船コンサート」「うたえバンバン」「パネルシアターコンサート」などで全国展開してきた。持ち前の明るさと、元気、パンチのある歌声と表現が大好評だが、現在は、「ナメちゃんのあったかわいわいライブ」で0～3歳と親を対象としたコンサートへと活動をひろげている。

ともしびPROFILE

1954年、東京新宿の食堂で自然と歌声が響き、それは歌声喫茶ともしび（当時は「灯」）の誕生となった。以来50年以上、その灯は絶えることなく、今日でも歌声が響いている。
URL：http://www.tomoshibi.co.jp/utagoe/
営業時間　年中無休（但し、元旦及び「ともしび」の大イベントの日は休み）
夜：月～土　17:00～22:30
日・祝日 16:00～22:00
お昼のうたごえ：毎週木・金・土の13:30～16:00

公演情報

ともしびと歌おう 青春の大うたごえ喫茶 Vol.4

日時：10月16日（土）
14:00開演（13:30開場）
座席：全席自由（税込）
料金：前売 1,700円／当日 2,000円
ペアチケット（前売のみ）　3,000円
フォーラムメイト（前売・事務所のみ）1,500円
高校生以下 無料
一般発売：8月11日（水）
歌唱リード・伴奏：東京新宿「ともしび」
賛助出演：男性合唱団ゴールデンエイジ

主催・お問い合わせ
NPO法人福井芸術・文化フォーラム
電　話　0776-23-6905
開所時間　月～金 10:00～18:00／土日祝 休

月刊 ASOBI座がスタート!!

今年度から福井芸術･文化フォーラムが新たに始めた“月刊 ASOBI 座”。「交流」をテーマに、舞台をもっと身近にする催しを開催します。ASOBI 座では、舞台（出演者）と客席（お客様）の双方向の交流をテーマに内容を企画し、お客様に舞台をもっと身近に感じていただけるような、遊び心満載の企画をお届けしたいと考えています。その第１回目を６月に行い、７月、８月と回を重ねてきました。今回のイベントレポートは終了した３回の ASOBI 座です。担当者のレポートでより具体的な ASOBI 座が見えてくるのではないでしょうか。

REPORT 01　月刊 ASOBI 座シリーズ１

橋本姉妹のピアノ連だんコンサート ～聴いてみよう、弾いてみよう～

2010 年６月26日（土）　17:30 ～ 19:15
出演：橋本志津子・橋本美恵　ナビゲーター：寺尾敏幸（仁愛女子短期大学名誉教授）・飴田彩子（FM 福井アナウンサー）

「交流」をテーマに、舞台をもっと身近に感じてもらおうと、今年度から始まった「月刊 ASOBI 座」。シリーズの第１回目となった今公演は、堅いイメージをもたれがちなクラシックをカジュアルな雰囲気で楽しんでもらえるよう、聴くだけでなく“体験する”要素を盛り込んだコンサートです。この“体験する”は、即興で橋本姉妹と連弾で共演するというもので、客席のお子さん３名が舞台にあがりました。ちびっこピアニスト達を見守る会場の温かな雰囲気は、ASOBI 座が目指す「舞台と客席の一体感」そのものでした。また、聴かせるコーナーでは、バレエ組曲「くるみ割り人形」の中から４曲を、飴田さんによる物語の朗読を織り交ぜ演奏しました。演奏だけではなく、朗読がプラスされたことで、聴く人の想像力がより膨らんだのではないでしょうか。他にも、アップテンポの曲では赤や緑の鮮やかな照明の演出、ちょうどこの日が誕生日のお客様へサプライズ企画として、会場の皆様でハッピーバースデーソングをプレゼント、ナビゲーターの寺尾さんからは、文化会館にある３台のピアノにまつわるエピソードなどが聴けたりと、盛りだくさんの内容でした。

今回の企画は、文化会館でカジュアルなクラシックコンサートをやりたい！　という企画に携わるスタッフの願望がそもそもの出発点です。有名な歌手のコンサートをする、名の知れた役者さんのお芝居をする、という企画以外に、もっと頻繁に文化会館で催しをやりたいという思いが形になった、今公演。月に１回何か催しをするという企画が、フォーラムの新たなチャレンジなのです。　（事務局 A）

REPORT 02　月刊 ASOBI 座シリーズ２

コンドルズ藤田善宏の放課後ダンスクラブ

2010 年７月９日（金）　18:30～21:00
「部長」（講師）：藤田善宏

7月の ASOBI 座は、９月に福井公演を行うダンスカンパニー・コンドルズの中心的メンバーで福井市出身の藤田善宏さんを講師に迎えてのダンスワークショップ。藤田氏のワークショップは今回で３回目になりますが、今回はタイトルを「放課後ダンスクラブ」、藤田さんを「部長」と銘打ち、参加者が仕事や学校の帰りに、気軽にふらっとダンス体験をしてほしい、との思いで開催。９月に公演が行われるその舞台上にて行いました。

主な内容
- オリジナル振付に挑戦
- 藤田さんのダンスを観る
- 藤田さんに聞いてみよう

オリジナルの振付に挑戦してみるコーナーでは、自分の好きな食べ物を動きで表します。食べ物の形や食べるしぐさ。参加者それぞれが考えた動きを順番につなげて、ちょっとしたアクセントやリズムを加えると、なんと、ダンスに！即興的に音楽や照明も加わって、気分も高まります。ちょっとした何気ない動きから振付が生まれることに感動です。

続いては別の動きに。寝転がったり、腕を伸ばしたり、からだをひねったり。ただ動くだけだとピンと来ませんが、同じ動きを文庫本を手にしてやってみると…？あら不思議。文庫本という対象物があると動きをイメージして随分と踊りやすくなりますし、観る側も自然と踊りにストーリーを想像して観やすくなりました。

このようにして参加者は、ダンス経験の区別なく楽しみながら身体を動かしたり、藤田さんの話を聴いたりしながら、ダンスの魅力や表現することの楽しさに触れることができました。

最後は藤田さんと記念写真を撮って、終始和やかなムードでワークショップは進行。あっという間の２時間半でした。

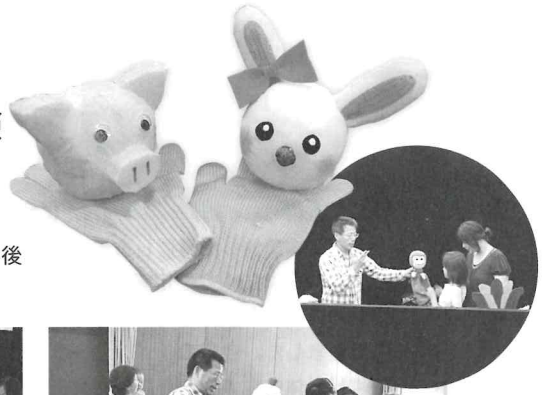
終了後、参加者からは次のような声をいただきました。
- 新しい視点や振付のヒントが増えた
- 照明・音響も加わって感動した
- （もっと）ダンスをやってみたくなった
- 金額の割に内容が良い
- 想像以上に充実した時間。こんな機会をもっと増やしてほしい

ASOBI 座では、舞台（出演者）と客席（お客様）の双方向の交流をテーマに内容を企画しています。お客様に舞台をもっと身近に感じていただけるような、遊び心満載の企画をお届けしたいと考えています。（事務局 N）

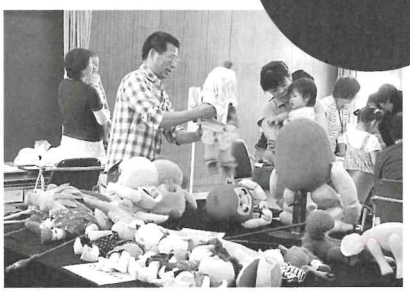
REPORT 03　月刊 ASOBI 座シリーズ３

人形劇団とんとの 見る 作る あそぶ 人形劇体験

2010年８月１日（日）　10:00～17:00
進行：人形劇団とんと・西村朋明（人形劇とぴア）



「月刊 ASOBI 座」の第３弾は、人形劇体験です。この催しは、文化会館に来れば人形劇人形の作り方、演じ方が体験できてしまうという創造の体験を市民に提供しようという企画でした。午前中を中心に親子連れが訪れ、人形劇団とんとの人形作り、人形操作などを体験しました。参加した親子は「人形の微妙な動き」「人形作りの難しさ」「人形の視線の奥深さ」など人形劇の裏側の魅力を十分味わって楽しめたようです。参加した親子が少なかったので、宣伝に課題が残りましたが、市民参加の事業は少ないので、今後も継続していきたい事業です。（理事 M）



３回の ASOBI 座を終えて、報告からもわかるように ASOBI 座の最大のテーマである「交流」が、それぞれの回に、目に見える形で実現できているように思えます。参加していただいた皆様には、舞台が少し近く感じられたのではないでしょうか。

同時に、企画側の問題も見えてきました。限られた予算と人員、短い準備期間で事業を企画する大変さ、これらの問題をどう克服していくかもこれからのフォーラムの課題です。これらの問題と向き合いながらこれからもこの事業を続けていきたいと考えています。

EVENT SCHEDULE　イベントスケジュール　10月▶12月

10/16（土）	ともしびと歌おう　青春の大うたごえ喫茶Vol.4	14:00開演　全席自由	一般前売　1,700円 ペアチケット　3,000円 高校生以下無料
10/29（金）	福井の文化を語る夜（月刊ASOBI座 シリーズ５）	19:00	参加費無料
12/ 3（金） 4（土）	出前寄席　出演：林家染左	市内４ヶ所の公民館にて、詳細はお問い合わせください	
12/ 5（日）	能楽堂落語会　出演：桂 平治・林家染左（月刊ASOBI座 シリーズ６・特別編）	14:00開演　全席自由	一般前売　2,000円 学生前売　1,000円 10月27日（水）発売

※公演等の詳しい情報についてはお問い合わせいただくか、Webをご覧ください。　※上記は2010年9月1日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。

FUKKART 舞台の裏から 2 ARTIST ESSAY

みんなで音楽を

橋本志津子

“ステージと客席が一体になれるコンサートをしたい”

自分が、コンサートやイベントで演奏するようになり、
“お客様が楽しめるステージにしたい” と思うようになりました。

企画担当の方と、どのようなお客様がこられるだろうか…
この時期はどんな曲を聴きたいだろうか…
とたくさんのことを話し合い、本番が近くなると、音響・照明さんと打合せをします。
色々なアイデアを出し合いながら私たちは一つになり、そして本番で、私たちとお客様が一つになる。

音楽は、いつも私たちの身近にあるものだから、コンサートも、お客様の身近なものであってほしいと思っています。

今回は月刊 ASOBI 座第１回目の「橋本姉妹のピアノ連だんコンサート～聴いてみよう、弾いてみよう～」に出演いただいた橋本志津子さんに執筆いただきました。

編　集　後　記

■父が介護を必要な体になって感じたこと。
障害を持つ人が劇場に行く難しさ。
家族が行くのも難しいな～。（K.M）

■この欄で落語については２回触れたがその後日談。桂米丸師匠とはユーモア発明の縁で東京でお会いしていたが、ご来福時に楽屋を訪ね、関わった発明品を謹呈したところ後日、丁重な便りを頂いた。７月末にテレビでお元気な姿を拝見し感激。また、バイクで全国を修行口演した桂三若さん（桂三枝師匠の６番弟子）は日記風にまとめて出版したり、桂ざこば師匠（上方落語協会代表理事）のお嬢さん（女優）と結婚。現在もメール交換をしている。昨今の、上方落語協会上方笑女隊北陸支部開設等々を知るにつけ県内の落語ブームの定着と展開を期待しています。（H.Y）

暑さも和らぎ、芸術の秋へと季節の移ろいを感じます。
福井芸術・文化フォーラムでも色とりどりの催しで皆さまをお待ちしております。

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています
（2010年度法人賛助会員）

北陸労働金庫　財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ　エースイン福井　（９月現在）

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山 2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
Email geibun@geibun.info　URL http://geibun.info/

■ご意見・ご感想・ご要望は、メールまたは FAX でフォーラムまでお気軽にお寄せください。

2010年９月15日発行　通巻33号